

第二次更正案ニ對スル

我等ノ聲明

我が日本交通従業員組合は、今回の東京市電氣局が第二次更生案を實施せんとするに對し、我等の所信を左の如く聲明する。

我等は曩きに本組合結成頭初に於て市電經營の現狀を憂慮し、之が更生對策として、交通統制の實現、電力自給、公債整理、新税制の確立等々數項に亘つて當局に獻策進言を爲し、一方従業員の思想善導として日本精神の發揚、愛國思想の普及、産業協力の實踐等、微力ながら全力を傾倒して來た。

過去に於ける幾多の市電爭議に際しても我等は常に従業員の立場に立つて尙且、市電産業と五百萬市民の福祉を念として身を賭して善處し會つては同僚一千餘名の大整理にも涙を吞んで黙認し二百數十萬圓に上る一大削減に對しても、市電百年の大計確立云々の美名に信賴して我等は敢て之を甘受したのである。

然るに慘憺たる餘焰未だ收らず、百年の大計未だ三年を出ずして再び市電更生云々とは何事ぞ。

翻つて願れば曾ての我等が獻策苦衷は今以て風馬牛の如くして容れられず、我等が一は以て國防を充實し、一は以て従業員諸子の思想善導にと心魂を打込んだ愛國機納運動も遂に空しく蹂躪せしめられた、今以て我等は終生の恨事としてゐる。

要するに斯くの如く正道善行の容れられざる素因たるや奈邊？朝に令して夕に改む、之豈獨り市電のみならず市全體の行政に、税制に、財政に、教育に、人事に、百鬼夜行し誰かまた其責に任ずるものなきが故である。

我等は茲に於て自治行政の根本に向つて糺明せなければならぬことを痛感し、今回の市電第二次更生案の如きも、たゞ單なる我々従業員の犠牲と削減に依つてのみ更生するものにあらざると同時に又公正妥當の道に非ず、問題はより根本的であり、東京市の政治機構、經濟機構、更に人的問題にてもあると確信する。

我が日本交通従業員組合は現下の國際危局に立つて敢て事を好まんとするものに非るも事態の推移、問題の進展如何に依つては勢の赴く處、我等は深刻にして悲壯なる決意を有するものである。今日第二次更生案の具體的内容を審かにせず、當局の舉措未だ明かならざるを以て我等の根本的態度を鮮明せざるも、果して市電更生の美名に陰れ不正なる犠牲を強要するならば、我等は斷乎として不拔の戰陣を布き破邪顯正の歩武を進めなければならぬ。

庶幾は内外の情勢、寔に緊切なるものあり、茲に我等は本組合の名に於て當局の再考と慎重なる善處を要望して止まざるものである。

右聲明す

昭和九年八月三十日

日本交通従業員組合本部

東京市芝區新橋一ノ一六(昭生ビル)

電話銀座一五一六番